

第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会報告記

今年も第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会にハイブリッド開催でしたが、発表者は原則現地参加ということでしたので、鹿児島へ初めて行ってきました。当院から種田院長、土田、坂東先生、萩原先生で出席してきました。日本糖尿病学会としては初めて鹿児島で開催されまして、九州で開催されるのは 2013 年熊本で開催されて以降 10 年ぶりとなりました。会長は鹿児島大学大学院医歯学総合研究科糖尿病・内分泌内科学西尾善彦教授でした。滋賀医科大学のご出身で George L. King 教授の下、Joslin Diabetes Center, Harvard Medical School にご留学されており、糖尿病合併症のご専門の先生でいらっしゃいます。会場は城山ホテル鹿児島、かごしま県民交流センター、宝山ホールの 3 会場での開催で、主会場は鹿児島では一番由緒あるホテルである城山ホテル鹿児島でした。北海道から鹿児島までは最北端から最南端ですので移動にはかなり時間がかかり、私は新千歳から福岡空港経由博多から新幹線で鹿児島まで行きました。他の先生たちは新千歳から羽田経由鹿児島空港で、片道約 4 時間かかり移動でかなり大変でした。

当院からは 3 演題発表がありそれぞれ簡単にまとめて頂きます。

土田：私は「慢性便秘症治療薬エロピキシバット水和物投与 2 型糖尿病症例における HbA1c および脂質改善効果の検討」という演題名で、発表しました。グーフイス®は、胆汁酸トランスポーター阻害薬であり、血液中の GLP-1 を上昇させる作用を持つとされ、また脂質の改善効果も検討されています。そこで糖尿病患者において HbA1c 7.08 から 6.88% と有意に改善したこと。LDL-C 87.52 から 73.06mg/dl と有意に改善したことを報告してきました。全日参加し勉強三昧の学会でした。5 月 10 日（水）は評議員会に出席しましたが、懇親会の際に森伊蔵、魔王、村尾（3M）の鹿児島三大芋焼酎（プレミアム焼酎）が振る舞われました。なんと飲み放題でした。

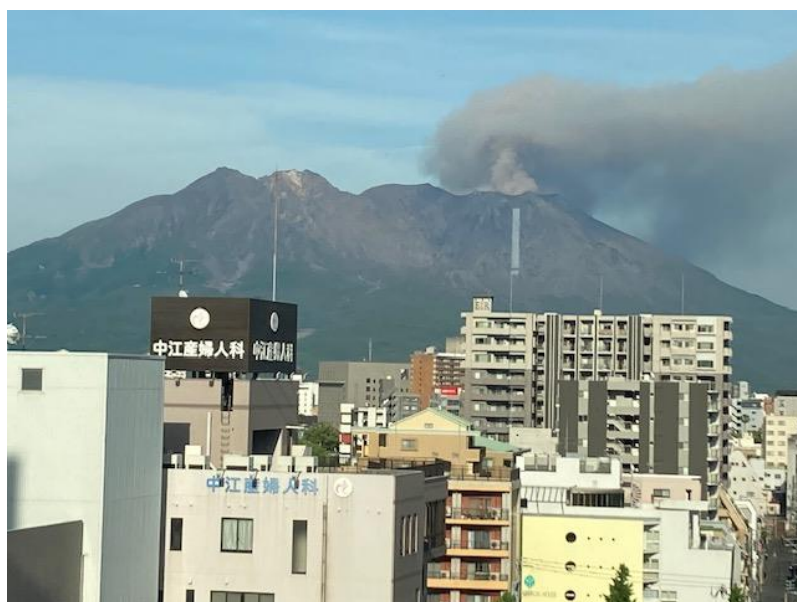
坂東先生：糖尿病患者における eGFR とビタミン D の関連について発表した。

今回は結果としてビタミン D (25 水酸化ビタミン D) が eGFR が低下するほど上昇するという結果を示していた。尚、後日の第 23 回日本抗加齢医学会総会（ポスター発表）において、25 水酸化ビタミン D と骨塩定量との関連については、大腿骨との関連が深く、腰椎との関連が必ずしも有意ではないことを発表した旨も付け加えておく。

萩原先生：私は「保存期慢性腎不全 2 型糖尿病患者に対するリラグルチド（商品名ビクトーザ：LIR）の効果に関する検討」という演題名で発表を行ないました。DPP4 阻害薬からの切り替えで LIR 投与開始とした群と DPP4 阻害薬の継続投与を行った群を、腎機能を示す eGFR の変化率について主に比較しました。結果としては、LIR が血糖改善作用だけでなく腎保護作用も有する可能性が示唆されるものとなりました。すでに真夏のような鹿児島でマスク着用は厳しいものがありましたが、多くのことを学ぶことができ、大変有意義な学会となりました。

鹿児島と言えば桜島ですが、写真の通り噴煙が激しく、天気予報でも噴煙の注意報が出

ていた程です。会期中には鹿児島県内でマグニチュード 6 程度の大きな地震があり、地震警報がでましたが、幸い鹿児島市は揺れを感じませんでした。また西郷隆盛の銅像（坂東先生ご提供）などがあり今回の糖尿病学会は糖尿病学維新がテーマでしたが明治維新の歴史を感じました。また鹿児島という町は新しいホテル、ショッピングセンターなどがあり、思った以上に都会で、大都市でした。





(文責：土田健一)